

平成25年度農林水産試験研究 中間評価結果 (平成25年7月11日開催)

* 総合評価について

A: 優先して継続していくべきである。B: 継続していくべきである。C: 継続には、計画変更が必要である。D: 継続の必要性は低く、中止すべきである。

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
1	農林総合研究センター 農業試験場	いしかわ園芸オリジナル品種育成研究	H23-27	石川県における園芸作物オリジナル品種の育成を行う。 (1) フリージア: 既に品種登録した「f1」と、花色でシリーズ化できる新品種を育成する。 (2) ナシ: 本県の主要果樹であるナシの良食味の極早生・中生の品種を育成する。 (3) DNAマーカーを利用して、中島菜のネコブ病抵抗性系統を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中島菜は機能性が注目される野菜なので、しっかりと機能性が維持される育成を望む。 ・3つの農産品について計画通りに進んでいる。 ・今後の計画について、より具体的な数値目標が必要。 ・エアリーフローラは外部評価含めて、ブランドとして確立できる見通し大と思われる。 ・新水に替わる旧盆前のなし及び中島菜にも期待したい。 ・フリージアは生産農家の育成と拡大の課題が大事ではないかと思われる。 ・中島菜のネコブ病の克服が、夏場の生産拡大につながる点が評価できる。 ・フリージアについては今後の実用展開が楽しみである。 ・品種育成は企業における商品開発と同じ。石川ブランド（加賀、能登、金沢）商品開発は重要であり、その種類の選択こそが重要だ。 ・実用性が高く、ニーズも多い研究である。 ・県の園芸産地振興のためにも、成果を期待している。 	<p>石川ブランドの確立と園芸産地の活性化に向けて、計画通りオリジナル品種の育成に努める。</p> <p>フリージアについては、農林総合事務所と連携し、平成29年の100万本出荷を目指して、園芸農家だけでなく水稲農家へも普及していきたい。</p> <p>中島菜は機能性や食味も調査し、これらが従来のものと同等でネコブ病抵抗性も有するものを選抜する予定である。</p>
6	農林総合研究センター 林業試験場	県産スギ材を活用した接着重ね梁の長尺化・高品質化技術の開発	H23-27	公共建築物木材利用促進法の施行により公共建築物の木造化を推進している中、従来取り組んできた接着重ね梁の技術の研究を発展的にすすめ、県産スギ材に対応した重ね梁の長尺化と表面割れを防ぐ技術を開発する。 (1) 最適な縦継ぎ方法を選定する。 (2) 最適な接着剤の性能を検証する。 (3) 想定される縦継ぎ間隔の強度性能を検証する。 (4) 使用中に表面割れが発生しない部材の乾燥技術を確立する。 (5) 実大の接着重ね梁を製造し、強度性能データを整備する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルムアルデヒド系のレゾルシノール樹脂接着剤も、改良が加えられて健康被害の心配がないと聞いて安心した。 ・県産スギの有効利用に大きく貢献している。公共建築物などで積極的に利用して、普及に努めるべきと考える。 ・集成材よりも、接着剤の使用量の少ない材、「木らしさ」が出る重ね材へのニーズはあると感じた。 ・ハシ材のかさねの研究の話がでたが、問題点は強度だと思う。年輪幅によっても多少の違いが出ると思うので、やってみる価値はあると思う。 ・資源有効活用としてよい研究ではあるが、国の研究機関あるいは民間などですでに終わっている研究ではないか？ということを感じる。 ・仕上がりにも美しさがないと価値を生まない。 ・ニーズが大きい研究成果と判断される。 	<p>ハシ材（心去り材）を用いた重ね梁については、当初の計画にはないが、大径材を活用するための貴重なご意見をいただいたものであり、計画に追加して研究していく。</p> <p>金属に頼らない重ね梁のため継ぎ技術の研究については、一般的に利用されている集成材（板を貼り合わせたもの）とは異なるものであり、国内で石川県が唯一先行して取り組んでいるものである。</p> <p>既に開発されている表面割れの少ない乾燥技術を用いることや、節など欠点を事前に除去することにより、美しい製品を提供できるものと考えている。</p>